

義務教育学校基本構想案に関する町民説明会 主なご質問・ご意見

(令和7年12月21日 開催分)

■質疑応答

【質疑等】

- ① 特別支援学級では、児童生徒の状況によってクラスの分割や支援員の増員が必要になると思います。教室が足りないからできない、とならないよう柔軟な対応について考えているでしょうか。
- ② 町の予算で低学年の少人数学級を実施していると思いますが、教員の配置についても柔軟に対応できるようなプランがあるのか教えてほしいです。
- ③ 工事期間中は、今の美幌小学校の子供たちはどうなるのでしょうか。
- ④ かしわの木の説明で「子供ファースト」という話がありましたが、シンボルとなる木があることで自分の学校が好きとか、町が好きとか子供たちの思い出に残ることもあると思っていました。何をもって「子供ファースト」とするのか、場所が足りないから切ってしまうのではなく、子供たちの情緒面に配慮した子供ファーストでお願いしたいです。

【回答】

- ① 他の義務教育学校を視察した中では、例えば、教室を可動式の壁で柔軟に使える構造として半分くらいの広さの教室に設定している学校もあります。美幌町でも同様に柔軟性を持てるような機能を想定しています。
- ② 現在、小学校1~2年生で30人以下学級を実施していますが、義務教育学校になっても継続することを想定しています。また、教員定数の「弾力化」により特別支援に手厚く配置できることが考えられ、弾力化による学級増を見据えた余裕教室の確保についても配慮します。
- ③ 基本設計の段階で具体的に検討することになりますが、現時点では、まず増築棟を建設し、子供たちがそちらへ移って、残りの既存校舎を改修するというような、授業を継続しながらの整備を検討しています。工事車両や騒音対策など子供たちの教育環境への影響に十分配慮しながら、工事を進めていきたいと考えています。
- ④ かしわの木については、開校検討委員会でも8回のうち多くの時間を費やし議論を行ってきました。委員の皆様も積極的に切りたいと考える方はいませんでしたが、子供たちの教育環境が阻害されることになるのであれば伐採も検討すべきとのことで、今回ご説明した表現とさせていただいたところです。具体的には、基本設計の段階で想定される校舎の配置を何パターンか図面でお示した上で、皆様と意見交換しながら決めていきたいと考えています。

【質疑等】

- ① 美幌町義務教育学校の概要（小中一貫教育制度とは）のページのところに、義務教育学校では「学年制を柔軟に変更可能」とありますが、この部分を詳しく教えてほしいです。
- ② 他の学校では「みんなのトイレ」というジェンダーを意識したトイレが増えていると思っています。また、教室の広さは今 8m×8m だと思いますが、安平町の義務教育学校では倍くらいの広さにしているとの情報をしました。この点について、美幌町として考えは持っているのでしょうか。

【回答】

- ① 例えば札幌市では「6-3 制」、前期課程と後期課程をこれまで同じ 6 年生と 3 年生で区切っています。理由としては札幌市内での転校の動きが多いため、従来の区切りで統一しています。この区切りを義務教育学校ではそれぞれの実情に合わせて柔軟に変更することができます。一番多いのは、美幌町でも採用する「4-3-2」という区切りです。特に 3 の部分で小学校と中学校の段階が一緒になり、5 年生から教科担任制を取り入れていくということを考えています。この区切りを基本しながら、国の学習指導要領の動向も踏まえつつ、多様な学び、上学年内容の先取り学習、学び直し、習熟度別学習といった対応についてもこれから開校準備委員会の中で検討します。
- ② これまで視察した学校でも男女別に加え、誰でも利用できるトイレを整備していました。他にも制服ですが、セーラー服はなくなるのではないかと思っていて、上はブレザーで、スカート以外にズボンでも OK という形です。子供たちの多様性に配慮しながら、基本設計・開校準備委員会で検討します。

教室の広さについては、例えば参考にしている砂川市の義務教育学校では、新築で普通教室の大きさを 10m × 10m で設計しています。美幌町では、増築校舎にはある程度広めの教室を確保できるかもしれません、既存校舎は建物の構造上難しいという見解を持っています。増築校舎と既存校舎で具体的に可能かどうかは今後検討します。

【質疑等】

- ① 義務教育学校を目指すことは町として決定事項なのでしょうか。
- ② 83 億円という事業費を見ると、財政的に問題ないのでしょうか。ここまで費用がかかるのであれば学校の統合で繋いでいく方針でも良いのではないでしょうか。

【回答】

- ① 昨年度策定したビジョンにおいて義務教育学校による小中一貫教育を進めますという方針を固めており、これに沿って進めていきたいと考えています。
- ② 色々とシミュレーションは行っており、例えば統合して小学校 1 校、中学校 1 校にするというケースが考えられますが、小中学校いずれも教室数が足りず増築が必要となります。

財政面ですが、第 3 次美幌町財政運営計画では現在総事業費を 100 億円で試算をしています。補助金や整備時に町が負担する金額を除くと、建設後 22 年間で、実質的に町が毎年負担する額は約 1 億円程度を見込んでいます。この 1 億円をどう捻出するかといいま

すと、現在の 5 校を維持していくと光熱水費や修繕費などの維持管理経費が年間約 5 億円かかります。これを 1 校にすると単純に 5 分の 1 にはなりませんが、1 億円程度の縮減が見込まれ、この縮減分を建設に伴う将来負担に充てられると考えています。

また、5 校を継続した場合には、大規模改修も必要となりますので、今後 20 年間で 154 億円の経費がかかる見込みとなっており、これを 1 校にした場合には、整備時に 83 億円がかかりますが 20 年間で見ると 131 億円となります。このため、長期的に見ても義務教育学校 1 校に再編する方が総費用を抑えることができると考えています。補助金や有利な地方債などを最大限活用することで整備ができるものと判断しています。

【質疑等】

- ① 縦割り班活動というのは良い取り組みだと思います。上級生が下級生の面倒を見て、もし失敗したら上級生がしっかりと責任を負うという活動は、子供たちの思いやりの心の育成や大人になるために大事な経験になると思います。
- ② 小中一貫教育を進めるにあたって、授業の中で特色のあることを何か考えていますか。

【回答】

- ① 視察校の事例として、縦割り班での清掃活動や農園活動を実施し、9 年生が 1 年生を素晴らしい目で声かけしている様子が印象的でした。小さな学校ではやりやすいと思いますが、課題は 700 人規模の学校でどう縦割りにして活動させるかであり、先進的なミッションだと思っています。
- ② 今考えていることは、ふるさと教育の一環としてのふるさと検定です。大人が作る一般的なご当地の検定ではなく、子供たちが美幌の良さを調べ、問題を作成し、大人に解いてもらう形の検定です。総合的な学習、探究の学習となり美幌町の良さをみんなで認識していくこうという取り組みになります。こうした美幌町の特色のある取り組みについては、来年度の開校準備委員会で様々なアイデアをたたき台に議論していきます。

【質疑等】

先ほどのかしわの木の話もそうですが、大人だけの意見で進めるではなく、子供たちが自分でしっかりと決めていくような裁量権を持たせて、学校づくりそのものに関わる時間を十分に確保してほしいです。

【回答】

かしわの木は、開校検討委員会でも非常に多く議論しました。先ほどもお伝えしましたとおり積極的に切りたいという方はいませんでした。新しい学校の配置はこれから基本設計の中で何パターンかお示ししますが、かしわの木はふるさと教育にも繋がりますので、取扱いについてはまたこういう説明会でご意見をいただきながら判断します。

新しい学校づくりは今しかないチャンスであり、ビジョンを策定したときのように、子供たちのアンケートや意見をいただきながら、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

【質疑等】

- ① 増築分の事業費を 49 億円としていますが、小学生は美幌小学校の既存の校舎があると思いますので、増築校舎には中学生を入れることを想定しているのでしょうか。
- ② 学童施設を併設するという話がありましたが、増築校舎に含めるのでしょうか。それとも別に予算が必要になるのでしょうか。また施設の規模としてどのくらいの子供が入るのでしょうか。
- ③ 児童会と生徒会は義務教育学校になると一つの組織になるのかなと思っていますが、児童会で大勢の前で発表したりすることは大きな経験となると思いますので、4-3-2 のステージでそういう会があっても良いのかなと思います。

【回答】

- ① 既存校舎は 9,000 m²で、増築校舎は 7,000 m²での事業費を見込んでいます。この規模は砂川市の義務教育学校を参考としています。既存校舎と増築校舎にどの学年を配置するかは基本設計の中で検討しますが、「4-3-2」の学年の区切りに配慮した配置にしたいと考えています。
- ② 現在美幌小学校と東陽小学校が 3 年生まで、旭小学校が 4 年生まで学童を受け入れていますが、義務教育学校では 6 年生までの受入を想定しています。対象学童はシミュレーションでは 120 名を見込んでいます。具体的な部屋数や面積は未定であり、今後の基本設計で検討します。
- ③ 学校が一つになりますので、児童会・生徒会に分けることは想定していません。例えば生徒会という名前に統一して 1~9 年生が全て関わるような組織にして、その下の各委員会を作り変えるという方法もあります。これも開校準備委員会の中で検討しますが、子供たちの主体的な活動に配慮した組織にしたいと考えています。

【質疑等】

美幌小学校以外の学校の解体についてですが、少年団や社会人のスポーツ活動を円滑に行えるよう体育館だけでも残していただきたいです。

【回答】

体育館は、少年団や社会人団体の活動、防災避難所など幅広い活用がされており重要性を認識しています。既存の学校施設の有効利用については、具体的な方針はまだ決まっておりませんが、貴重なご意見をいただきましたので、しっかりと検討を進めて参ります。